フィールドで考える

「縁」のある建築

岩城 考信（いわき やすのぶ）
法政大学大学院工学研究科

大都会バンコクでの調査の難しさ

建築学の調査手法のひとつに実際に建物を測量して、図面化する実測調査がある。実測調査においてもっとも重要なことは、家主や店子からいかにして建物の測量の許可をいただくか、ということだ。測量には少なくとも数時間かかるし、建物の規模によっては数日を要するものもある。だから、商店がひしめき合うバンコクのチャイナタウンでは、なかなか測量の許可は思いどおりにいかない。忙しく店を切り盛りする商店の家主や店子に納得していただかないといけないからだ。

それでも、いくつかの建物を測量することができた。そのなかに華僑によって一九三〇年代半ばに開発された邸宅、店屋、長屋という多様な機能を複合した建物がある。五年前からこの建物を測量したいと思ってきたのだが、当時、家主は郊外に転出しており、連絡のとり方もわからず、近くを訪れるたびに外観を眺め、この建物とは「縁」がなかったと諦めていた。ところが二〇〇六年七月、近所を友人と歩いていると、無人のはずの邸宅が改修されていて、なかから若い男性が出て来た。すかさず、「この建物の家主ですか」と問いかけると、彼は「そうだよ。この建物に興味があるの、なかに入りたい？」と聞き返してきた。わたしは「入りたい」と即答し、恐る恐るこの建物を測量したい旨を伝えた。すると彼は「いいよ。ただ、家族に相談してみないと。それと調査は土日にしてくれないか、平日は忙しいから」と答えてくれた。後日、彼の家族の許可と三人の友人の協力を経て、三日間におよぶ実測調査が無事に終了した。

語り部を探して

ただ測量が終われば調査が終わりとはならない。というのもこの建物だけでは、建設年代や開発者の来歴についてよくわからなかったからだ。数年前に建物を購入した現在の家主は、むかしの家主の来歴についてほとんど知らず、また長屋に住む店子は新しい大家に気をつかっているのか、単純に古い大家について知らないのか、みな一様に「古いことはわからない」と答える。そこで近所に住む古老や物知りを探す。

建設年代は、建物の建材や構法と人びとの語りからおおよその判断がつく。近所に住むおばさんが「この建物の開発者はキム・チャイハという華僑だよ」と語ってくれた。ただし「キム・チャイハ」は中国語（潮州方言）をタイ語で音声表記したもので、やはり今後資料から彼の来歴を知るためにも漢字で知りたい。華僑も二世、三世になると家庭内で中国語を話し、自分の漢名ぐらいは書くことはできても、教育はタイ語で受けてきた人びとが多いためその他の語彙を漢字で筆記できない。親切なおばさんは隣に住む古老の家のドアを叩き、わたしを紹介した。古老は「キム・チャイハは、金財合と書くのだ」とわたしの野帳に力強く書き記してくれた。古老はキム・チャイハの事業について、「タイや中国の土産を扱う貿易商」という興味深い話も聞かせてくれた。新しい疑問が湧いた。彼の商店や事務所は、どこにあったのだろう。職住が隣接していたか否かは商業地の空間を考えるうえで重要なテーマである。しかし、この問いに答えられる人を建物の周りで見つけることはできなかった。

タイ語で書いてくれないか？

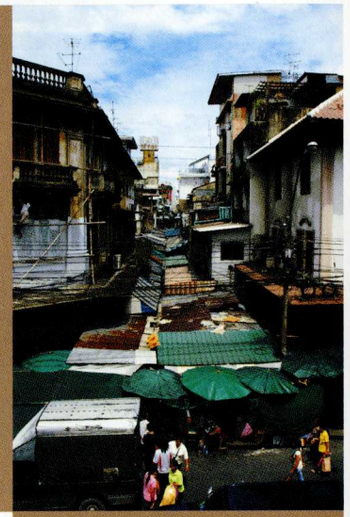
数週間が過ぎ、近くの中国廟を訪れる所用があった。前夜、心ない人によって廟の看板が盗まれたそうで、中年の兄弟が「あんなものを盗んで何に使うのだろう」と愚痴をこぼしながら、新しい看板に金字で廟の名前を書いていた。といっても彼らは漢字が書けるわけではなく、廟内に残された別の看板を模して書いているのだという。廟を管理する人たちとあって、地域の歴史に明るく話好きだ。特に期待もせずに話のつなぎとして「キム・チャイハを知っていますか」と聞いてみた。すると「知っているよ。彼はソンワート通りに店を構えていた」との返事が返ってきた。ソンワート通りというのは、二〇世紀初頭に開発されて以来、チャイナタウンでも特に貿易商を中心とする大店が集まった通りとして知られている。詳しく話を聞くと彼は、キム・チャイハの開発した建物の近所に住んでいるということで、子どものころに父親がキム・チャイハについて語ったことを今も覚えていたのだ。少しずつ開発者についてわかり始めた。件の建物との「縁」を感じた。

一頻り雑談をした後、廟を出ようとすると、別れ際におじさんは「論文を書いたら、ぜひ一部を譲って欲しい」とわたしにいった。どうもこの地域の詳細な歴史を紹介した本はないようだ。そして「日本語も英語も中国語も読めないので、タイ語で書いてくれないか」と付け加えた。

研究者としてわたしは、一方的に人やモノから情報をもらってきた。受けた代わりに、いつか地域の人びとに還元しなくてはならない。廟のおじさんのことばは、研究者として忘れてはいけないことを改めて強くわたしに意識させた。

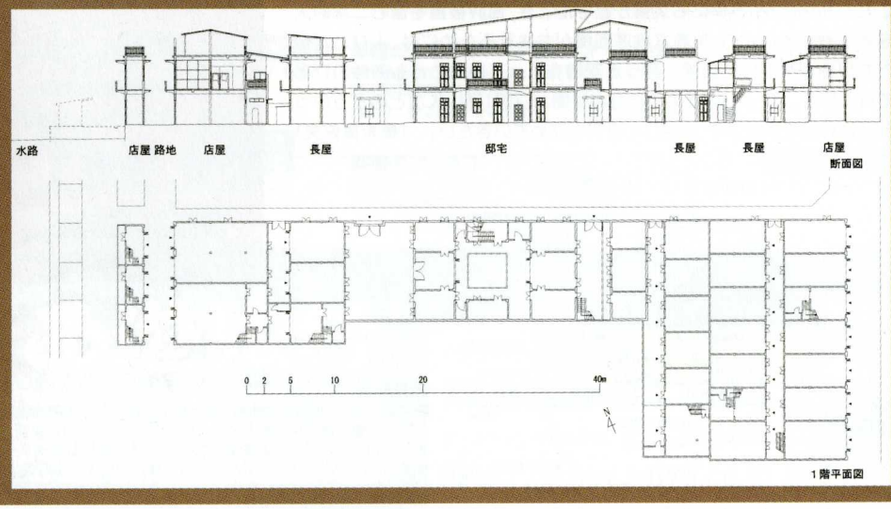
幅員の広い路地で遊ぶ子どもたち

キム・チャイハが開発した長屋の路地



チャイナタウンのサンペン通り

調査の様子
（実際に建物を指差して説明してもらう）



キム・チャイハが開発した建物
（筆者測量）